

【緊急情報】

平成20年2月13日
埼玉大学保健センター

はしか（麻疹）の流行に注意

はしか（麻疹（ましん））が首都圏を中心に大流行の様相を見せています。はしか（麻疹）は、ウィルスの感染によって起こる小児期の代表的な感染症の一つで、これまでは大人がかかるケースはまれと考えられて来ましたが、最近では成人患者の患者例が増えています。また、はしかは**大人がかかる**と**重症になる傾向**があり、注意が必要です。

はしか（麻疹）とは

はしか（麻疹）は、麻疹ウイルスによって引き起こされる感染症で、飛沫感染・空気感染・接触感染と様々な感染経路を示し、その感染力は極めて強く、鼻やのどの粘膜にウイルスが付着・侵入し増殖を始めることに起こる。

【症状】

潜伏期は10～12日。伝染期間は発疹4日前から出現後5日後で、強い感染力を持つ。症状はカタル期、発症期、回復期に分けられる。

- ・カタル期：**10～12日の潜伏期の後に38～39度台の発熱**、咳（乾いた咳が特徴）、鼻汁、くしゃみ、結膜充血、目脂を認める。
発熱3～4日目に頬の内側の粘膜にコプリック班と呼ばれる赤みを伴った白い小斑点が出現するのが特徴。
- ・発症期：**発症後3～4日にいったん解熱し、再び高熱が出現し持続する**。カタル期の症状が更に強くなり、発疹が耳の後ろから始まり、顔や首に広がり、体や手足の順番に出現します。
- ・回復期：熱は下降し、発疹は出現したのと同じ順序で消えていきます。発疹の跡には**胴褐色の色素沈着が残りますが、やがてこれも消えます**。

【治療】

麻疹ウイルスに対する特異的な治療法はなく、対症療法が中心になります。熱がある間は安静臥床し、**解熱後少なくとも3日間**は安静にする事。

適度の室温と湿度を保つようにし、口の中や皮膚の清潔に留意し、十分な水分と栄養補給ができるように注意してください。

【予防】

ワクチンがあります。予防接種を受けておくのが最も効果的です。

はしか（麻疹）と診断された場合は

はしか（麻疹）にかかった人は、学校や職場を休んで外出を控えてください。学校保健法での基準は「**発疹に伴う発熱が解熱した後3日間を経過するまで出席停止**」となっています。また、直ちに大学の保健センターに電話連絡をお願いします。

埼玉大学保健センター 電話 186-048-854-5356